



BUSINESS REPORT

第96期 報告書

2018年4月1日 ▶ 2019年3月31日



いつも となりに

おいしいキョクヨー





代表取締役会長
今井 賢司

代表取締役社長
井上 誠

企業理念

人間尊重を経営の基本に、健康で心豊かな生活と食文化に貢献し社会とともに成長することを目指します。

ご挨拶

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。ここに第96期(2019年3月期)報告書をお届けいたします。

昨年4月、キョクヨーグループは中期経営計画「Change Kyokuyo 2021」をスタートいたしました。

その初年度となるこの一年、法令の順守や労働環境の整備、資源多様性の保全といったESG重視の経営を基盤として、食品事業、海外事業の拡大と商品開発、資源アクセスの強化を図り、事業構造、資本政策の均衡に取り組んでまいりました。

引き続きキョクヨーグループは「魚を中心とした総合食品会社として、高収益構造への転換をはかり、資源、環境、労働などの社会的要請を踏まえ、事業のウイングの拡大と時間価値の提供により企業価値の向上を目指す」という基本方針のもと、「拡大」「強化」「均衡」の各戦略を進めることで高収益構造へ大きく転換していくことを目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続き多大なるご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2019年6月

中期経営計画「Change Kyokuyo 2021」の目標達成に向けて

当期(2019年3月期)の概況

当連結会計年度におけるわが国経済は、輸出や生産の一部に弱さが見られるものの、雇用・所得環境の改善が進み、緩やかな回復が続いております。

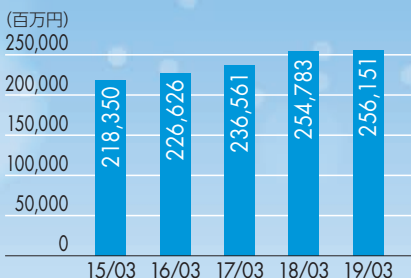
水産・食品業界におきましては、人手不足による労働コスト・物流コストの上昇に加え、世界的な水産物需要の増

大による買付コストの上昇など、厳しい状況が続いております。

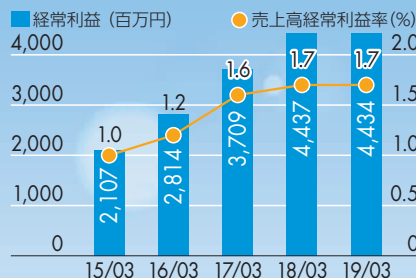
このような状況のもとで、中期経営計画『Change Kyokuyo 2021』(2018年度～2020年度)の初年度として、『魚を中心とした総合食品会社として、高収益構造へ

主な連結財務指標

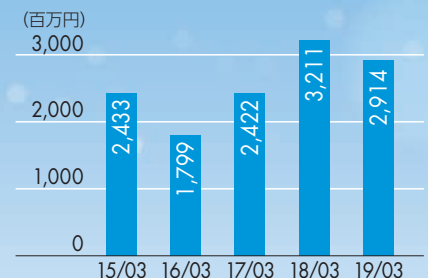
売上高



経常利益／売上高経常利益率



親会社株主に帰属する当期純利益



の転換をはかり、資源、環境、労働などの社会的要請を踏まえ、事業のウイングの拡大と時間価値の提供により企業価値の向上を目指す』という基本方針のもと、『ESG重視の事業活動』を通じて『拡大』『強化』『均衡』の各戦略を進め、高収益構造へ大きく転換していくことを目指し、取り組んでまいりました。

その結果、当社グループの売上高は2,561億51百万円(前期比0.5%増)、営業利益は38億31百万円(前期比5.8%減)、経常利益は44億34百万円(前期比0.1%減)、親会社株主に帰属する当期純利益は29億14百万円(前期比9.2%減)となりました。

各セグメントの状況は以下のとおりです。

水産商事セグメントにおいて、国内では鮭鱒などの付加価値加工品の取扱いは伸びましたが、市況が低迷したエビや北洋魚などの販売は前年を下回りました。一方、海外では日本産サバ・イワシの輸出、米国子会社による米国内販売が伸びました。結果、下半期は前年を上回る利益を計上することができましたが、苦戦を強いられた上半期の業績を補うまでには至らず、売上・利益ともに前期を下回りました。

冷凍食品セグメントにおいて、水産冷凍食品事業では寿司種を中心とした生食用商品及び切身・煮魚などの加

熱用商品の拡販に努め、特に煮魚などの個食タイプの販売が伸びました。調理冷凍食品事業ではカニ風味かまぼこが、家庭用冷凍食品事業では塩釜工場製品の販売が順調に推移しました。この結果、売上・利益とも前期を上回りました。

常温食品セグメントにおいて、缶詰販売は、サバ缶の需要拡大により発生した供給不足に対し、イワシ缶などその他水産缶詰の販売に注力しましたが、補うことができませんでした。一方、珍味製品においては、販売が好調に推移したほか、規格変更などでコストアップ対策に取り組みました。この結果、売上は前期並みとなりましたが、利益は前期を上回りました。

物流サービスセグメントでは、連結子会社において会社分割及び株式譲渡を行なったことにより、売上は前期を下回りましたが、在庫貨物の確保を図り、配送事業強化に努めた結果、利益は前期を上回りました。

鰹・鮪セグメントにおいて、加工及び販売事業では、クロマグロなど脂物製品や、マグロタタキ、カツオ加工品の取扱いを伸ばしました。一方、養殖事業は台風被害などにより養殖魚の生育に影響が出たほか、海外まき網事業は、前期と比べ水揚げ数量は上回ったものの、魚価が大幅に下落したことで、売上・利益とも前期を下回りました。

次期(2020年3月期)の計画目標

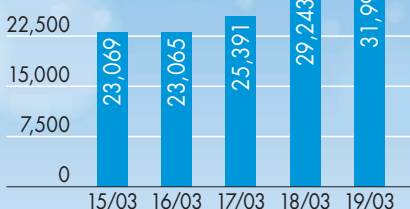
次期におけるわが国経済は、緩やかな回復基調が見込まれるものの、世界経済の不確実性など先行きは不透明な状況にあります。水産・食品業界におきましても、原料価格の高止まり、人手不足による労働コストの上昇や企業間競争の激化など、引き続き厳しい経営環境が想定されます。

このような状況のもと、当社グループは中期経営計画『Change Kyokuyo 2021』の2年目に向けて、新たな気持ちで取り組んでまいります。

次期の連結業績は、売上高2,860億円、営業利益55億円、経常利益54億円、親会社株主に帰属する当期純利益38億円を見込んでおります。

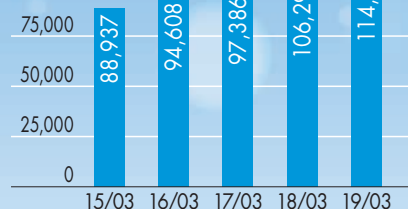
純資産

(百万円)
30,000

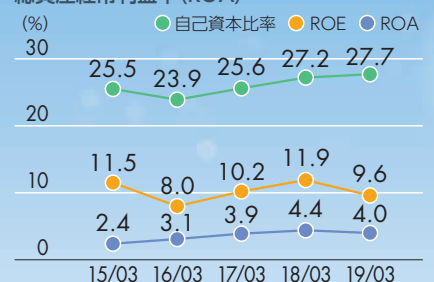


総資産

(百万円)
100,000



自己資本比率/自己資本利益率(ROE)/ 総資産経常利益率(ROA)



TOPICS

2018.4-2019.3

Change Kyokuyo 2021をスタート

「魚を中心とした総合食品会社として、高収益構造への転換をはかり、資源、環境、労働などの社会的要請を踏まえ、事業のウイングの拡大と時間価値の提供により企業価値の向上を目指す」ことを基本方針に目標の達成に取り組んでまいります。

新しい経営体制が始動

第95回定時株主総会での決定をへて、今井賢司会長、井上誠社長による新体制が発足いたしました。

2018年

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

2019年

アスリートを社員として採用

2017年より日本カヌー連盟のオフィシャルパートナーとして協賛しておりますが、2018年度、社会活動としてのスポーツ振興に貢献するため、カヌースラローム・カヤックの山本嶺(やまもと りょう)選手を正社員として採用いたしました。当社は業務と競技が両立できる環境を整備し、アスリートの挑戦を全力で支援してまいります。



企業CMのテレビ放映を開始

創立以来初となる企業CM「みんなのキョクヨー」篇を制作し、2018年7月よりテレビ放映を開始いたしました。



CSR 環境保全・社会貢献活動

「海洋管理のための水産事業：Seafood Business for Ocean Stewardship (略称SeaBOS)」への参加

2017年4月、世界最大手の水産企業と科学者が海洋管理について話し合うイニシアチブSeaBOSに参加し、持続可能な水産事業のためのさまざまな課題の解決に取り組んでいます。

2018年9月、スウェーデン王国ヴィクトリア皇太子殿下ご臨席のもと軽井沢で3回目の会議が開催され、当社からは井上社長が出席しました。この会議では、



Photo by Said Karlsson

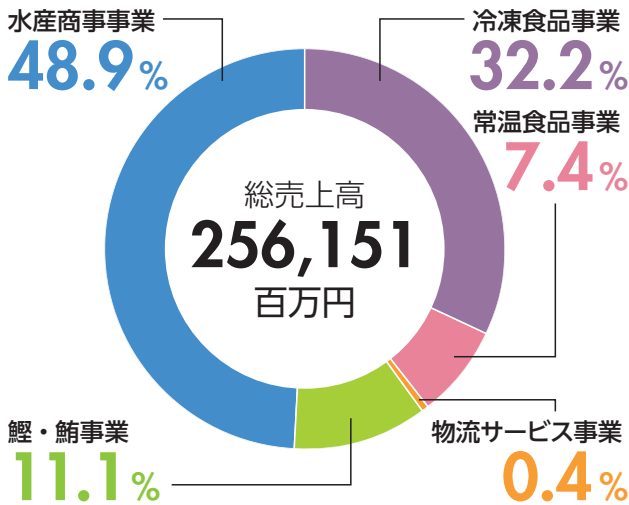
参加各社のグローバルな事業とサプライチェーンにおいてサステナブル(持続可能)な事業活動の推進に取り組むことが確認され、海洋の健全性や水産物の持続可能性に影響する重要な課題に取り組むこと、透明性のある報告をすることなど、海洋管理を進めるためSeaBOSが世界の海洋政策と規制の改善に主導的役割を果たすことが合意されました。

CSR報告書2018発刊

ESG重視を打ち出した中期経営計画や、クロマグロの完全養殖への取り組みにフォーカスしつつ、キョクヨーグループの持続的な経営への取り組み姿勢を発信するコミュニケーションツールとして、2018年秋に発刊いたしました。



セグメント別売上高構成比

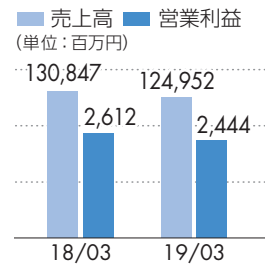


水産商事事業

- 売上高 **124,952** 百万円
- 営業利益 **2,444** 百万円

国内外の支社、営業所、駐在員事務所、関係会社の相互連携により、世界の海から質の高い水産物を安定的に調達するとともに、切身製品やカニ、エビの剥き身製品などを提供しています。

また、日本国内で漁獲された魚類の輸出や三国間貿易を積極的に行い、水産物の有効利用と資源循環型社会の実現に努めると同時に、魚食のグローバル化へも対応しています。



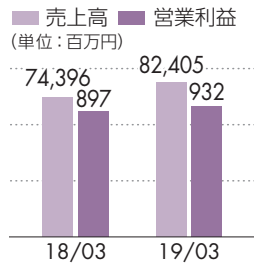
定塩紅鮭フィレ

冷凍食品事業

- 売上高 **82,405** 百万円
- 営業利益 **932** 百万円

寿司種を中心とした生食用商品を外食チェーンなどへ販売しているほか、業務用加工品「だんどり上手」シリーズなどの加熱用商品を高齢者施設や宅配向けに販売しています。

また、水産フライ類やカニ風味かまぼこをはじめ、畜肉製品や冷凍野菜などを外食ルートや量販店惣菜売場向けに販売しています。家庭用冷凍食品は大手量販店での販売が拡大しています。



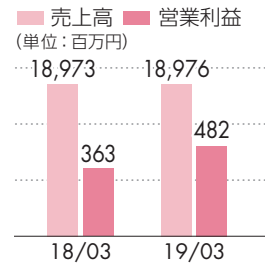
だんどり上手
さば味噌煮 (骨なし)

常温食品事業

- 売上高 **18,976** 百万円
- 営業利益 **482** 百万円

1949年の缶詰製造から始まった長い歴史を持つ事業です。現在ではサバ、カツオ、イワシなどの魚介缶詰のほか、畜肉缶詰なども取りそろえ、「シーマルシェ」ブランドの商品もラインアップして製品力の強化を図っています。また、あたりめ、さきイカなどの海産珍味類のほか、グルコサミンやDHAなどの健康食品も販売しています。

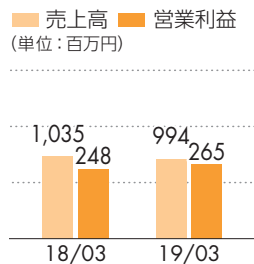
(左) 海から生まれたグルコサミン
(右) 紅鮭水煮 アメリカ(アラスカ)産



物流サービス事業

- 売上高 **994** 百万円
- 営業利益 **265** 百万円

冷蔵倉庫事業を中心に東京の大井及び城南島、福岡の3事業所体制でロジスティクス・サービスを提供しております。

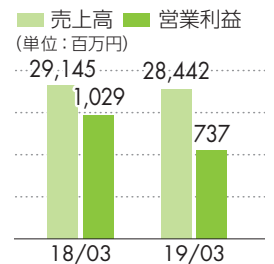


キョクヨー秋津冷蔵(城南海島事業所)

鰹・鮪事業

- 売上高 **28,442** 百万円
- 営業利益 **737** 百万円

カツオ、マグロの漁撈・養殖から買付・加工・販売までを一貫して手掛けています。カツオについては、当社グループ所有のまき網船「わかば丸」など独自の調達力があります。マグロについては、限りある水産資源の保全と安定的供給のために、四国で養殖事業を展開し、オリジナルブランド「本鮪の極」に加え、天然稚魚に頼らない完全養殖クロマグロ「本鮪の極 つなぐ(TUNAGU)」も国内外からご好評をいただいております。



本鮪の極 つなぐ(TUNAGU)

● **会社概要** 2019年3月31日現在

社名 株式会社 極洋
 英文社名 KYOKUYO CO., LTD.
 本社所在地 〒107-0052 東京都港区赤坂三丁目3番5号
 設立 1937年9月3日
 資本金 56億6千4百万円
 主要な事業内容 水産物の輸出入・国内買付販売、加工食品及び冷凍食品の製造販売
 従業員数 2,264名(連結) / 664名(個別)
 連結対象会社数 24社

● **役員の状況** 2019年3月31日現在

役員
 代表取締役会長 今井 賢司 取締役 田中 豊
 代表取締役社長 井上 誠 取締役 西村 齊之
 専務取締役 酒井 健 取締役 三浦 理代
 専務取締役 芥川 淳 取締役 小畑 一雄
 常務取締役 松行 健一 常勤監査役 田村 雅治
 取締役 松尾 達二 常勤監査役 菅野 洋一
 取締役 近藤 茂 監査役 天利 均
 取締役 木山 修一 監査役 志村 和彦

● **株主優待のご案内**

当社は、株主の皆様からの日頃のご支援に感謝するとともに、当社株式の魅力を高め、当社株式を保有していただける株主の増加を図ることを目的として株主優待制度を実施しています。

株主優待の内容

対象株主 毎年3月31日現在の当社株主名簿に記載された1単元(100株)以上所有の株主様
優待の内容 対象株主および優待の内容
 ● 毎年3月31日現在の当社株主名簿に記載された1単元(100株)以上3単元(300株)未満所有の株主様には2,500円相当の当社製品を贈呈
 ● 毎年3月31日現在の当社株主名簿に記載された3単元(300株)以上所有の株主様には6,000円相当の当社製品を贈呈
贈呈時期 毎年7月予定

● **株主メモ**

事業年度 4月1日～翌年3月31日
 定時株主総会 毎年6月
 定時株主総会基準日 3月31日
 期末配当金基準日 3月31日
 公告方法 当社の公告方法は、電子公告としております。公告掲載URL : <https://www.kyokuyo.co.jp>
 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告を行うことができない場合は、東京都内において発行される日本経済新聞に掲載する方法により行います。
 株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社
 同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 東京都府中市日鋼町1-1
 電話: 0120-232-711 (フリーダイヤル)
 郵送先: 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

(ご注意)

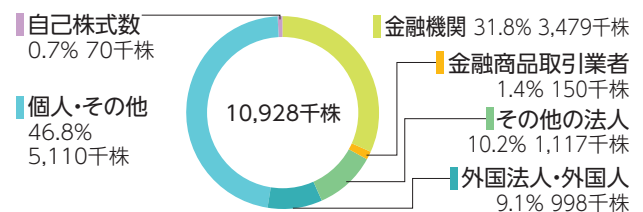
- 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記載された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取り扱いいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

● **株式の概況** 2019年3月31日現在

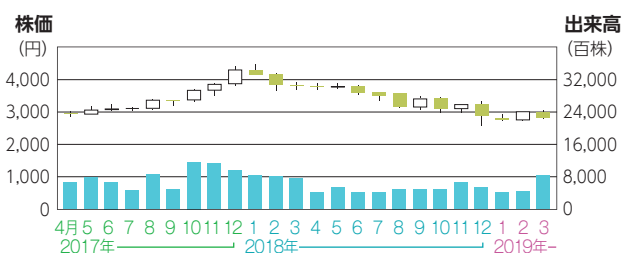
発行可能株式総数 43,700,000株
 発行済株式の総数 10,928,283株
 株主数 29,212名
 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,216	11.20
株式会社りそな銀行	523	4.82
農林中央金庫	523	4.82
東洋製罐グループホールディングス株式会社	315	2.90
三井住友海上火災保険株式会社	250	2.30
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	235	2.16
東京海上日動火災保険株式会社	224	2.06
極洋秋津会	162	1.49
SIX SIS LTD.	140	1.29
中央魚類株式会社	139	1.28

所有者別株式数分布状況



株価及び出来高の推移



WEBサイトのご案内

キョクヨーのこだわりや企業情報、商品紹介、IR関連などの最新情報を掲載しております。また、皆様のご意見やご質問などをお受けするお問い合わせフォームも用意しておりますので、是非ご活用ください。



<https://www.kyokuyo.co.jp>

